

熱中症等の回避に向けた安全意識の向上

熱中症等対策研修強化期間の設定

熱中症等対策研修強化期間：**4月1日～6月30日**

※前年より1カ月前倒し

【主な研修内容】

- ①熱中症対策アイテムの活用
- ②夏季の農作業(草刈、高所作業等)のリスク解説
- ③ホワイト生産方式の紹介
- ④熱中症発症時の対応

などを専用テキスト等を用いて研修

農作業中の熱中症対策 ▶ 休憩と水分・塩分補給

・高温下での長時間作業を避け、「こまめな休憩と水分・塩分補給」を行い、「絶対に無理をしない、頑張らずに」ことが大切です。

・水分補給は、発汗によって失われた体内の水分を回復・維持し深部体温の上昇を抑えます。**塩分(ナトリウム)**などの**電解質と糖質を含んだ飲料**は、水分吸収を早めるため、意識的に摂取するよう心がけましょう。

**20分おきに休憩
水分・塩分補給**

・涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げましょう。

・のどが潤いていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。

微細な水の粒が入ったアイスラリーや経口補水液がおすすめです！



(参考)昨年のテキスト

夏の熱中症等対策声かけ期間の新設

熱中症等対策声かけ期間：**7月1日～9月30日**

【今夏のキャッチフレーズ】

いのちをうばう、夏のひとり作業

【その他の主な取組】

- ①農業者向けの注意喚起チラシの配布
- ②各種会合や農業生産資材の販売・配達等の機会を捉えた声かけ
- ③SNS、防災無線、広報誌など様々な媒体を活用した声かけ

農作業中の熱中症を
予防しましょう!!

農作業中の熱中症

※毎年、約10万人が労務災害中の熱中症に
なり死に
※西と中部の両方から死者・重傷者が発生して
いる。今年も早急に対処しよう。

予防のポイント

暑さを避ける
農作業の時間・作業場所・作業内容・作業方法
の4つを調整しよう。

こまめな休憩と水分補給
水分補給は、発汗によって失われた体内の水分を
回復・維持し深部体温の上昇を抑えます。

熱中症対策アイテムの活用
涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げま
しょう。

のどが潤いていなくても、20分おきに毎回コ
ップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。



(参考)昨年のチラシ



※農業機械作業研修及び未熟練農業者を対象とした研修については、期間に限らず実施しその状況は把握する。

夏の熱中症等対策声かけ期間(7/1～9/30)における具体的な取組

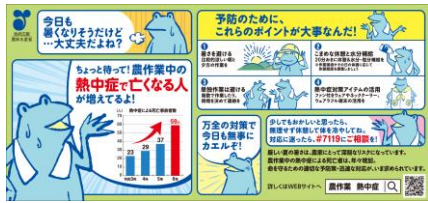
1.政府広報等各種メディア・SNSでの発信【農林水産省】

① 農林水産省広報誌「aff7月号」での熱中症対策コラム掲載

4週にわたって掲載するWEB広報誌に、熱中症対策に関するコラムを掲載



② 政府広報における日農新聞突き出し広告(6月)、ラジオCM(7月)



※8月、9月の政府広報テーマについても応募中

③ 農林水産省公式Xやメールマガジンでの投稿(7～9月)



農林水産省
@MAFF_JAPAN

熱中症予防チェックリスト

～日常生活～

- ① 飲酒は控える

アルコールには利尿作用があり、体内の水分を奪い、脱水症状を引き起こしやすいです。

④ 記者勉強会の実施、メディアでの掲載依頼(6月末)

2.注意喚起のチラシの全戸配布【地方自治体】

農業者向けの注意喚起チラシを市町村を通じて、農家全戸に配布。

市町村においては、回覧板での配布、広報誌への掲載もしくは挟み込み等で全戸配布いただくことを想定

7月から9月は「夏の熱中症等声かけ期間」です！

農作業中の熱中症等による死に危険が増しています。熱中症が7～9月に発生しており、非常に熱中症リスクが高くなっています。熱中症は、周りの人がお互いに気を配り、声を掛け合うことで、防げる可能性があります。

声かけ活動のポイント

家族で	職場で	地域全体で
作業前後だけでなく、作業中もこまめにコミュニケーションをとる。 ① 「熱い、喉の乾いた、休憩しよう」 ② 「休憩が済んだら、もうすぐ帰るよ」	その日の気温や湿度を確認し、互いに適切な声をかけあう。 ① 「熱い、喉の乾いた、休憩しよう」 ② 「休憩が済んだら、もうすぐ帰るよ」	農作業を始めた時、まず一声声をかけあう。 ① 「熱い、喉の乾いた、休憩しよう」 ② 「休憩が済んだら、もうすぐ帰るよ」

キャッチフレーズは「いのちをうばう、夏のひとり作業」

熱中症対策の3つのポイント

- ① 暑さに応じて、作業のペースを落とす
- ② 暑い作業は、朝の涼しい時間帯に済ませ、暑い時間帯は、涼しい時間帯に済ませる
- ③ 暑い作業は、朝の涼しい時間帯に済ませ、暑い時間帯は、涼しい時間帯に済ませる

暑熱は1人作業が多く、熱中症になった際に助けが得られず命を失う危険があります。熱中症対策は、一人ひとりの命を守るために、地域全体で取り組む必要があります。

どうしても、一人作業を避けられない場合は、必ず1人ひとりの「大丈夫？」が、命を守ります。この夏は熱中症による死をゼロを目指しましょう！

配布チラシイメージ

※農業センサスに基づき市町村ごとの農家戸数分を市町村に配布することを基本とするが、広報誌に掲載する場合も想定されることから、事前に必要部数について自治体に確認する。

3.熱中症対策声かけ隊【任意の協力者】

地域の農業者に対し、声かけや見回り活動を行う有志を募り、全国的なプロジェクト活動を実施。

【想定される取組主体】

JA、資材販売店、農業高校・農業大学校、農業機械士会、4Hクラブ、地域の農業者、その他農業団体、普及支援センター、その他地方自治体等

【主な取組】

- ① 地域の巡回における農業者への声かけ
- ② 各種会合や農業生産資材の販売・配達等の機会を捉えた声かけ
- ③ SNS、防災無線、広報誌など様々な媒体を活用した声かけ

※ 左記の注意喚起チラシの全戸配布の取組は対象外

【サポーター】

大塚製薬(P)、日本農業機械化協会(P) →声かけ活動中に配布するチラシやドリンク等の提供

熱中症対策声かけ隊の取組イメージ

趣旨・概要

地域の農業者に対し、声かけや見回り活動を行う有志を募り、熱中症予防の啓発活動を行う全国的なプロジェクト活動を実施。
具体的には、農林水産省にて声かけ活動に賛同していただける団体を募集し、取組内容に応じて必要資材を提供するとともに、最終的に取組実績の報告があった団体は農水省HPに掲載するとともに、感謝状を授与。

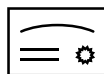
取組内容

農林水産省(事務局)



声かけ活動に取り組む有志を募集
取組計画に応じてサポーターと
必要資材を提供

最終的な取組実績をとり
まとめHPに公表、感謝状
を贈呈



サポーター



大塚製薬(株)
(一社)日本農業機械化協会

声かけ活動に必要な資材を提供
ex) 先着でイオン飲料を提供
声かけに使用するチラシを提供



熱中症対策声かけ隊



【想定される取組主体】

JA、資材販売店、農業高校・農業大学校、農業機械士会、4Hクラブ、地域の農業者、その他農業団体、普及支援センター、その他地方自治体等

農業現場の声かけ、見守り



(取組例)

農業高校生による地域パトロール

農業高校・農業大学校の学生が、
地域の指導者やJA職員とともに、
通学区域・実習地域等で声
かけ活動を実施

農業者の集まりでの声かけ



(取組例)

栽培講習会での声かけ

・農業者同士の声かけを実施
(単独作業の回避、体調確認)
・会合等での注意喚起の継続実施
ex. 地域のリーダー的農業者が
先導し、集会前後に声かけ

販売店での声かけ



(取組例)

農機・資材販売店での声かけ

農業資材の販売・点検・配達時
の機会など、日常業務の中で
短時間の声かけを実施
ex. 店頭の旗や店内や会計時で
のチラシ配布

広報誌・メディアへの掲載 防災無線・広報車等での声かけ



(取組例)

自治体やJA等で発行する広報
誌やSNS等への掲載

農業者向けに発信している広
報誌やSNS上で、熱中症対策
に関する情報を掲載

第1回「農作業安全表彰」受賞者における声かけ活動

- 農作業安全に関する優良事例等の横展開を促すとともに、農作業安全に対する意識や活動を前向きで明るいものに変えていくことを目的に、本年度より新たに「農作業安全表彰」を創設。
- 記念すべき第1回の受賞者は、新潟県立桜ヶ丘高校に決定。

(農産局長賞受賞者)

新潟県立村上桜ヶ丘高校

- ・ 学生主体で取り組む「農作業事故ゼロプロジェクト」にて、シートベルトの着用や熱中症に関するアンケート調査を実施し、事故実態や課題を研究成果としてセミナー等で発信。
- ・ アンケート調査にて、約90%の方が夏場に1人作業をしていると回答があったことを踏まえ、夏場の作業の危険性を直接訴えるため、地域のJAとともに、熱中症パトロールを実施。休憩と水分補給の大切さを説明し、JAから提供いただいたスポーツドリンクを渡し、熱中症の注意喚起を行う。
- ・ 研究成果を踏まえ、トラクターのシートベルト着用促進、また熱中症対策に関するポスターを作成し、注意喚起を図る。



アンケート調査を実施する様子



シートベルト着用促進・
熱中症対策ポスター

